

W I N G E S S A Y

DENTAL WING Co.,LTD

—2016年 11月号—

☆今年もあと2か月。少しずつではありますが、年末へ向けての準備が増えて参ります。おくんちを境に肌寒さを感じるようになりましたが、季節の変わり目です。くれぐれもお身体をお大事に！

☆今月は、とてもいいお話をご紹介させていただきます。

子どもの頃、母がよく話してくれたお話の中に、パン屋と旅人とケチな商人が出てくる話がありました。一人の旅人が食べ物と一夜の宿を求めて商人の家にやってきます。ケチな商人と女房は、旅人を追い払ってしまいました。旅人はそれからパン屋を訪ねます。パン屋は一文無しで、パンを焼く材料も底をついていました。それでも旅人を家に入れ、乏しい食料を分け与えます。自分のベッドも貸してやります。翌朝旅人はパン屋に礼を言い、「あなたは、朝最初にすることを、一日中するでしょう」と不思議なことを言います。それが、どういう意味かわかりませんでした。パン屋はこの客にケーキを焼いて持たせてやろうと思いました。彼は、最後に残っていた材料、二つの卵と、一カップの小麦粉、砂糖とスパイスを使って、ケーキを焼き始めました。ところが驚いたことに、材料は使っても使っても減らないのです。二つの卵を取り出すと、そこには四つの卵が表れます。小麦粉の袋から最後の一カップの粉を取り出すと、袋を下に置いたとたん小麦粉でいっぱいになりました。パン屋は大喜びして、夢中で色々なおいしいお菓子を焼きました。町の広場はかぐわしいパンやクッキーやケーキやパイの香りでいっぱいになりました。そして、パン屋の前には長いお客の列ができました。パン屋の引き出しはお金であふれました。その夜、疲れきってはいても幸せな気持ちのパン屋の家に、ケチな商人がやってきました。「どうして今日は、そんなにたくさんのお客が来たんだ。町中の人々がパンやケーキを買いに来たじゃないか。」パン屋は、自分が泊めた旅人のこと、今朝の不思議な予言のことを話しました。商人と女房は、パン屋から駆け出して、街道を走りました。そしてようやく、ゆうべ追い払った男を見つけます。「旦那さん」と商人は男に呼びかけました。「昨日の御無礼をお許し下さい。どうぞ戻って、私どもにおもてなしをさせてください。」旅人は何も言わずに、彼らと一緒に街へ戻りました。商人は旅人に、ご馳走と上等のワイン、それにおいしデザートをふるまいました。豪華な羽毛布団のベッドもすすめました。旅人はもてなしに対する礼を言って「今朝最初にすることを、今日一日中することになるだろう」と言いました。旅人をさっさと送り出すと、商人と女房は店に戻りました。大勢の客が来るにちがいないと、商人はほうきで床を掃き始めました。女房は十分なおつりがあるだろうか、引き出しの中の小銭を数えはじめました。夫は床を掃き、妻は小銭を数える。妻は数え、夫は掃く。なぜか、やめることができません。とうとう一日中そうしていました。

パン屋も商人も同じ予言をもらいました。パン屋は一日を前向きに人のために動き始め大きな恵みを手に入れました。商人は、利己的な事から始め、何も手に入りませんでした。天から与えられる運勢はニュートラルなものです。人が人生を作る能力もニュートラルです。あなたは人生を好きなように使えます。世の中をよくしたいと思えば、まず自分の心の中の不和を無くすことから始めなければなりません。言葉を変えれば、考え方が変わり、まわりの世界を変えることになります。不満を言うのをやめれば、ネガティブな考えは出場所を失いますから、心のあり方が変わってきて、幸福を感じるようになります。

【書名：もう不満は言わない 著者：ウイル・ボウエン 出版社：サンマーク出版】